

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 4月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
所在地 (電話番号)	鹿児島県鹿児島市東佐多町2060 (電 話) 099-295-2422
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6
訪問調査日	平成19年4月13日

【情報提供票より】(平成19年 3月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 30日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	9人, 非常勤 9人, 常勤換算 15.4

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1000 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院、希望が丘病院、錦江クリニック、有村医院、久保クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

吉田さくらの里の理念として、「この家で、共にくつろぎ、共にやすらぎ、地域とふれ合いのある暮らし」を目指し、田舎風景の広がる自然環境の中で、入居者は自分の持てる力を発揮しながら、野菜や花作り、料理、はり絵等の趣味活動を行ったり、ドライブや外食を楽しむなど、生き生きと生活されている様子が伺える。職員は全員有資格者で、チームワークも良く、入居者や家族の思いを尊重し、一人ひとりに合った生きがいを見つけながら、地域の中で安心してその人らしく暮らすことができるよう、一緒に楽しみ支え合う関係を築いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>救急救命法や応急手当の講習実施訓練不足に関しては、救命講習会を受講している。注意の必要な物品の保管管理も改善されている。市町村との関わりについては、地域サロンへの参加を企画し、現在も取り組みの段階にある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行い、評価結果をもとに改善に向けた話し合いを持ち、検討しながら、サービスの質の確保に活かすよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の中で、ホームの現状報告や防災時の対応について、地域の方との連携体制のあり方を検討したり、地域交流を深める為の話し合いをもち、サービスの向上に活かせるような取り組みを行なっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会の中で意見や要望を出してもらったり、訪問時の面接及び面会ノートを利用し、家族の不安や聞きたい事何でも記入してもらいやりとりを行ないながら、改善すべき点は職員で検討し、申し送りを行い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の文化祭に入居者の作品を出品し一緒に参加したり、味噌作り講習会への参加、小中学生の職場体験の受け入れを行い交流を図っている。ホームの夏祭りには地域の方々も参加されている。町内会参加に関しては、ホームが町境にある為現在交渉中である。地域住民の一員として地域に貢献したいという、ホーム側の意向が早期に実現できるよう今後に期待したい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解し、「この家で共にくつろぎ、共にやすらぎ、地域とふれあいのある暮らし」という開設当初からの理念のもと、入居者が地域の中で安心してその人らしく生活できるような支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念や方針について、月1回の合同会議の中で職員に話している。又、申し送り後に日々のふり返りを行い、対応の仕方、言葉使い等、職員はお互いの気づきを出し合い、日々ケアの質の向上に向けた取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に入居者の作品を出品して参加したり、味噌作り講習への参加や、地域の小中学生の職場体験学習の受け入れ等を行っている。小学生が下校時に立寄ってくれる機会もふえ、夏祭りには大勢の地域住民の参加もみられた。日頃より地域住民に挨拶や声かけを行い、気軽にホームに立寄ってもらうよう積極的に		町内会入会に関しては、ホームが町の境目にあたる為現在交渉の段階にある。地域住民の一員として地域に貢献したいというホーム側の意見が早急に実現できるよう、今後に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行なっている。評価の結果を皆で話し合い検討しながら、サービスの質の確保に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には30名の参加者があり、外部評価の改善点の取り組み状況や、防災時対応、地域交流等についてホームの方針を報告したり、質問、意見、要望を受け、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

グループホーム吉田さくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会社の統括部長が市町村担当者に書類を提出したり、相談を行なっている。又、役場に「パンフレットを置いたり、地域サロンの要請があれば職員が出向く体制ができています。	○	今後は管理者も一緒になり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを、市町村担当者に伝えていくなど、関係づくりを深めていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者と入居者が一緒に家族宛の便りを作り、入居者の思いや生活状況を報告している。又、個別の連絡ノートを作成し情報交換したり、面会時の報告も行なっている。請求書と一緒に、金銭報告、職員移動の報告を行なったり、2～3ヶ月に1回ホーム便りを発行している。病院受診時はその都度家族に電話連絡をとつ		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	去年より家族会を発足し意見や要望を出してもらっている。又面会ノートを利用した家族とのやりとりや、運営推進会議での意見を取り入れながら、改善点を申し送りノートに記入し、話し合いを行い、反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は夜間緊急時等を考慮し、職員が全入居者の状況を把握する為に、1年に1回2ユニット間での移動を行なっている。入居者へのダメージ防止として、管理者から要望を出し、開設当初からの職員1名ずつは各ユニットに固定している。	○	緊急時対策としての職員の移動も大切であるが、基本的には、各ユニットの職員を固定化し、入居者と職員の馴染みの関係作りを構築できるような、配慮や工夫が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、資格や経験を考慮しながら職員が交代で参加し、伝達講習も行なっている。又、他事業所への研修や勉強会にも参加する機会を設けたり、日々のケアの見直しを行う等、職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流の必要性を認識し、年に数回地域のグループホームや包括支援センターの職員と交流会を持ち、情報交換をしたりネットワーク作りをして、サービスの質を高める支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は事前にホームを見学したり、2週間程家族と通いながらの体験入所を経て、本人が納得した上で入居に至るなど、入居希望者一人ひとりの状況に合わせて徐々に馴染めるよう、家族とも相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は認識しており、だんごやお菓子、料理作り、園芸等を通し入居者の経験や知識を教えてもらいながら、一緒に楽しみ支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、入居者の思いや希望を聞いたり、家族からの情報を得る等して、本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人家族の意向を把握し、月1回のモニタリング、ケアカンファレンスで意見を出し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今年の1月から月1回のモニタリング、ケアカンファレンスを毎月実施している。計画作成は3ヶ月に1回を予定している。又、状態変化時には随時見直しを行い、計画は分かりやすい内容となっている。		

グループホーム吉田さくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、病院受診、買い物、自宅訪問など、入居者一人ひとりが満足する暮らしが出来るよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する掛かりつけ医となっており、職員が通院支援を行い、無理な場合のみ家族に協力ももっている。又、事業所の協力医療機関は24時間相談できる体制にある。他医療機関とも連携を図り、必要に応じて訪問診療を依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理と緊急時の対応については、本人、家族が安心してサービスを利用できるよう取り組んでいる。現段階ではターミナルケアの研修に職員2名が参加し、知識の習得を図っているが、重度化した場合や終末期のあり方についての対応方針は確立されていない。	○	今後、重度化した場合や終末期の対応指針について運営者とも相談しながら、関係者全体の方針の統一を図ることが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日々の申し送り後や会議の折に、対応の仕方や言葉使いについて職員と話し合いをもち、入居者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。個人の情報の取り扱いについてはミーティング時等に話し、全職員の理解を促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その日の望みやしたい事を把握し、献立、食事、入浴の時間、ドライブ、買い物、外出、絵や貼り絵等の創作活動など、希望に合わせた支援を心がけ柔軟に対応している。		

グループホーム吉田さくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りは、1週間分を入居者と職員が一緒に行い、ホームの畑で採れた野菜を調理する楽しみごともあり取り入れながら、一人ひとりの状況に合わせて、調理の準備や後片付けも一緒に行い、触れ合いながら、楽しく食事が出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日はドライブや外出等の為入浴日と決めていない。時間は14時からを基本としているが、希望時は時間を変更したり、入浴を拒否する場合は、声かけの工夫やタイミングをみながら個々のペースに合わせて、柔軟な対応で支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、お菓子作り、味噌、梅干作り、洗濯、園芸など、経験や知恵を発揮する場面を作っている。楽しみごとや気晴らしの為、絵や貼り絵、計算ドリル、グランドゴルフなども取り入れた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭での外気浴や車椅子での散歩、近くの商店への買い物を行なっている。ドライブ時は、その日の入居者の希望を聞き行き場所を決めたり、自宅に立寄ったりする機会を作っている。又、温泉や花見、外食に出かけたりと、季節感を味わい気分転換ができるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口は自動ドアで、戸外へのスロープにつながっていたが、ドア開放時に入居者が突進したケースがあったため、事故防止を考え、現在は手動に切り替えて、入居者は自由に入出入りしている。日中は鍵をかけず、職員は見守りながらケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を、入居者と消防署と一緒に進めている。地区の川が危険水域を越え非難した経験もあり、水害時は夜間2名の職員待機体制をとるようにしている。災害に備えた備品の準備はできていない。ホーム周辺の住民が高齢者の為に協力する体制ができていない。	○	消防訓練だけでなく地震、台風、水害時の備蓄を含めた具体的な避難策について検討すると共に、地域住民の協力が得られるよう支援体制の整備に向けた取り組みが期待される。

グループホーム吉田さくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握した食材の工夫や、嚥下状態や咀嚼能力に応じた食事形態の工夫を行なっている。食事量や水分摂取量も毎日記録し、摂取量の少ない時は医師との連携を図りながら支援している。看護師が大まかなカロリー計算等を行い、栄養バランスにも留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や日差しなどに留意しながら、季節の花を居間やテーブルに飾ったり、入居者の作った装飾品、温かみのある家具を使用し、共用空間の中で入居者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者と家族が相談しながら、テレビや鏡台、化粧道具、観葉植物、写真、シルバーカー等、使い慣れたものや好みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		